

予報は気象庁ホームページで見られます

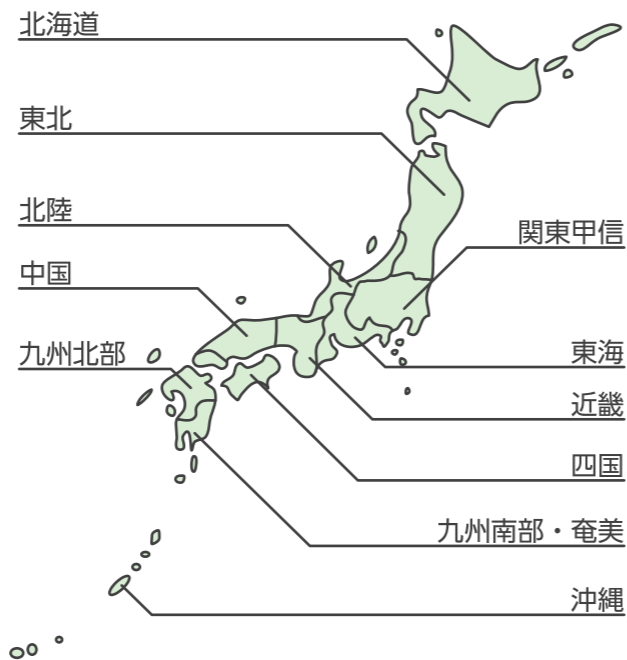
平均気温  
11月16日～12月15日  
「高い」または「低い」確率が40%以上の地域  
地域別の下の数値は、左から、低い・平年並・高いの最高率(%)

● 1か月予報  
<http://www.jma.go.jp/jp/longfcst/>

● 異常天候早期警戒情報  
<http://www.jma.go.jp/jp/soukei/>

予報の対象地域

全国を11の地域に分けて予報しています。



予報の種類と内容

種類	発表日時	内容
1か月予報	木曜日 14時30分	向こう1か月の 平均気温、降水量、日照時間、降雪量(冬季の日本海側のみ) 1週目、2週目、3～4週目の平均気温
異常天候早期警戒情報	原則月*・木曜日 14時30分 ※月曜日が休日の場合は 翌火曜日	5日後から14日後までの ・7日間平均気温が「かなり高い」または「かなり低い」 ・7日間降雪量が「かなり多い」(冬季の日本海側のみ) となる天候の可能性

季節予報はさまざまな産業で利用されています



農業分野



電力分野



製造・販売分野

気象庁の発表する季節予報は、農業分野(農作物の生産管理)、電力分野(電力の需要予測や供給管理)、製造・販売分野(商品の発注や店頭対応)などに利用されています。



気象庁マスコットキャラクター  
はれるん

気象庁 地球環境・海洋部 気候情報課  
〒100-8122 東京都千代田区大手町1-3-4  
TEL:03-3212-8341(代表)  
FAX:03-6689-2917(耳の不自由な方向へ)  
<http://www.jma.go.jp/>

季節予報って何?

平成27年2月発行  
※このリーフレットは印刷用の紙へリサイクルできます。

使ってみよう!

# 1か月予報と 異常天候早期警戒情報

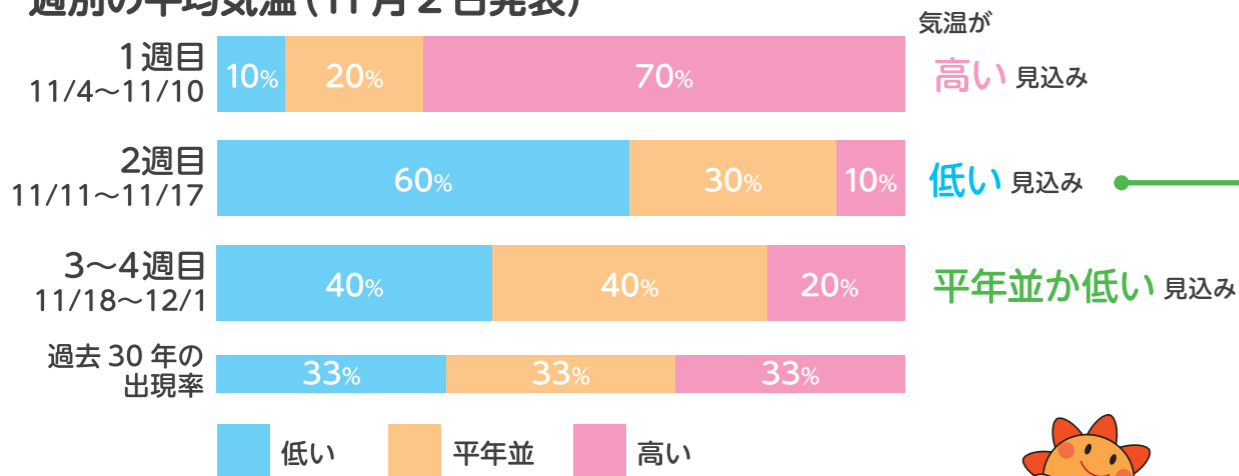
～季節はずれの暑さ・寒さにあわてないために～



気象庁の発表する季節予報では、およそ2週間から半年先までの気温や降水量、日照時間などを平年と比べて予報しています。このリーフレットでは、季節予報のうち、1か月予報と異常天候早期警戒情報を紹介します。

# この1か月予報をみてみよう

## 週別の平均気温(11月2日発表)



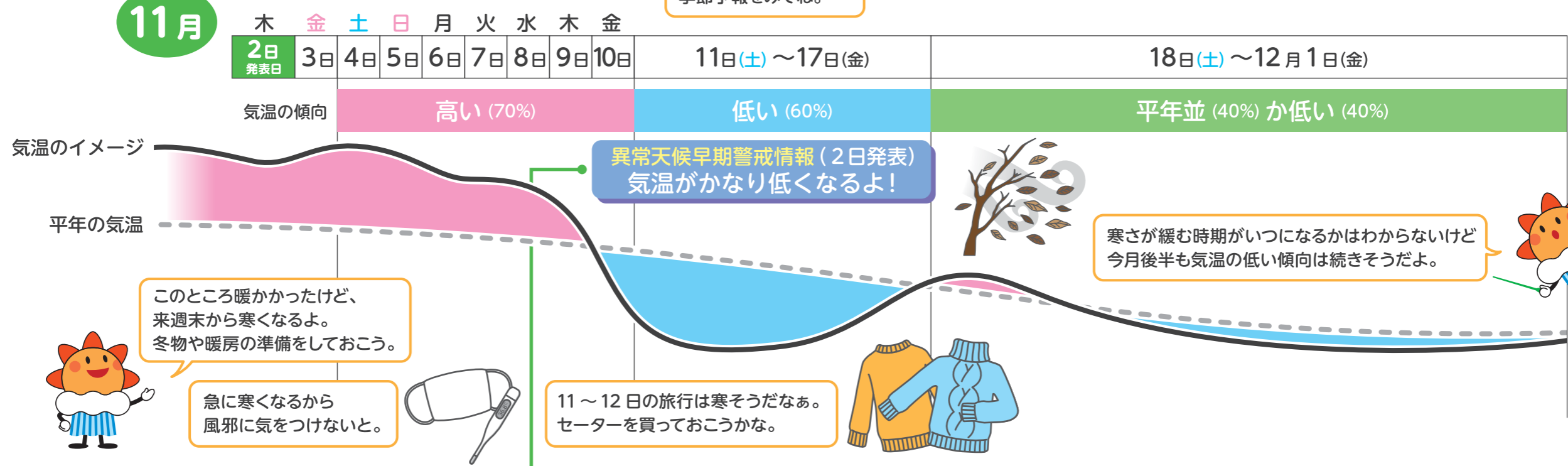
# 1か月予報では、まず気温に注目してね

1か月予報を利用すると、週間天気予報より先の気温の傾向がわかり、暮らしに役立ちます。

1か月予報では、気温を週別に予報しています。週間天気予報よりも先の気温の傾向がわかりますので、たとえば、こんな使い方ができます。

今日(11月2日)発表の1か月予報によると、1週目は気温が高い確率が70%、2週目は低い確率が60%で、下の図のように2週目に気温がぐっと低くなる可能性が高いことがわかります。10日頃から寒くなるので、この週末など早めに冬物や暖房の準備をするのがおすすめです。

## 11月



# 異常天候早期警戒情報も発表されたよ!

2週間後までに著しい高温や低温、降雪量が見込まれる場合は、異常天候早期警戒情報を発表して、注意を呼びかけます。

この情報は、その時期としては10年に1度程度しかおきないような、かなり高い(低い)気温やかなり多い降雪量(冬季の日本海側のみ)が予想されるときに、早めに対策がとれるよう5日前までに発表します。発表日は原則として毎週月曜日と木曜日です。

この例では10日頃からかなり低い気温となるため、2日(木)に1か月予報と同時に発表して、みなさんにお知らせします。

## 「低い」「平年並」「高い」ってなんだろう?

気温や降水量を平年(過去30年の平均値で、現在は1981~2010年の平均)と比べるときには、「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の3つの階級で表現します。1か月予報ではこの3つの階級になる確率を予報しています。階級は過去30年の観測値を小さい順に並べて、小さい方から10番目までを「低い」、11番目から20番目を「平年並」、21番目以上を「高い(少ない、多いも同様)」として、それぞれ10年ずつ(33%ずつ)となるように決めています。

## どうして確率を使うの?

1週間以上先になると「最高気温は25℃」のような断定的な予報は難しくなるため、気温や降水量のおおまかな傾向と、実際にそうなる可能性がどのくらいかを確率で表現しています。

この予報の2週目と3~4週目を比べてみましょう。2週目は低い確率60%、3~4週目は40%です。どちらも「低い」確率は大きいのですが、2週目のほうが実際に低くなる可能性が大きいことがわかります。また、2週目は高い確率が10%しかなく、高くなる可能性は小さいこともポイントです。ぜひ、確率の大きさや小ささに注目してみてください。